

南丹市総合教育会議議事録

<令和7年度第1回>

令和8年1月14日

令和7年度第1回南丹市総合教育会議

- 1 日 時 令和8年1月14日（水）
開会：午後3時30分 閉会：午後5時15分
- 2 場 所 南丹市役所2号庁舎3階 301会議室
- 3 議 題
 - (1) 南丹市就学前教育・保育の現状について
 - (2) 南丹市就学前教育・保育の充実にむけた組織改正の効果について
 - (3) 小中一貫教育および義務教育学校についての意見交流
 - (4) 教育課題について
- 4 出席委員
西村市長
國府教育長、前田教育長職務代理者、城戸委員、湧上委員、一谷委員
- 5 会議に出席した職員
＜教育委員会事務局＞
野々口教育次長、谷口こども家庭センター長、山田教育参事、
山田学校教育課長、中川学校教育課参事、木上学校教育課参事、
井尻社会教育課長、田中幼児教育・保育推進課長、
西田幼児教育・保育推進課主幹、桐幼児教育・保育推進課主任
(橋本こども家庭課長欠席)

＜総合教育会議事務局＞
國府市長公室長、高屋企画財政課長、片山企画財政課課長補佐、
足立企画財政課係長、野々村企画財政課主査、堀木企画財政課主事
- 6 傍聴人 0名
- 7 会議の経過

＜1＞開会（進行：総合教育会議事務局）
ただ今から、令和7年度第1回南丹市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、西村市長からご挨拶をいただきます。

◇市長あいさつ

令和7年度第1回目総合教育会議ということで、教育委員の皆様にも、大変寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。

教育は、政治的なことに直接左右されるものではなく、こどものために安定的に進める必要があるということで、一般行政と教育行政はそれぞれ独立した考え方で、日本の教育制度は作られてきました。しかしながら、大津のいじめ事件のようなことがあり、どう対応するのか、というときのために日常的に連携をしたり、お互いに意見を聞きながら最善の教育を進めていく必要があります。課題が出たときに即動けるように、総合教育会議を実施し、組織を作っておくことが全国的に進められてきました。幸い本市の場合、教育長はじめ教育委員の皆様には、普段からお会いしたり、話を聞かせていただいたりする機会があり、しっかり連携ができていますと思います。しかしながら、テーマを設け、それについてお互いに考えを整理し、同じ方向を向いてまちづくり、教育づくりが進んでいくことは極めて大切ですので、今日も話し合いをしていきたいと思います。皆様には、忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げます。今日は大変お世話になります、よろしくお願い申し上げます。

[総合教育会議事務局]

ありがとうございました。本日まで出席いただいております委員の皆様、また、事務局として出席している職員の名簿についてはお手元に配布している次第とともに掲載していますのでお目通しください。

それでは、本日の議事に入ります。当会議の議長については、西村市長にお願いします。よろしく申し上げます。

< 2 > 議事

(1) 南丹市就学前教育・保育の現状について

[西村市長]

レジュメに従いまして、まず(1)南丹市就学前教育・保育の現状について事務局から説明をしたのち、ご意見等をいただきたいと思います。

(教育委員会事務局から説明)

[西村市長]

今、説明させていただきました内容についてはお手元に資料を配布していますので、ご覧になりながら、ご質問やご意見があればご発言をお願いいたします。

[前田教育委員]

現状で待機児童が出るということでしたが、再編することで解消されると考えてよろしいでしょうか。

[教育委員会事務局]

今、待機児童1名ですが、その方は園を限定されていますので、再度連絡を取り、入れる園が少し遠くなりますがどうですか、とお声掛けする予定です。

[前田教育委員]

再編の効果、メリットをお聞きしたいと思います。

[教育委員会事務局]

民間誘致につきましては、令和5年度から南丹のぞみ園を開園していただいています。公立施設は老朽化しており、維持管理に費用がかかりますが、公立施設の改修や新設には国の補助金等が得られません。民間につきましては、国の補助金も該当しますので、市の財政的な面も軽減するために民間に来ていただくというところが1つです。

公立の再編につきましても、園部幼稚園の利用者が減ってきており、そこを使ってこども園として再編するのが、市の経費の負担も一番少ないだろうというところでの判断です。保育利用のためには保育の必要要件が必要ですが、こども園にすると、保育の必要要件がなくても幼稚園利用ができます。園部保育所の施設も建て増しを繰り返している状況ですので、園部保育所の老朽化や使い勝手の悪さと、園部幼稚園の空き教室がある状況を全体的によりよく改善していくために、園部幼稚園をこども園化していくと整理をしています。全体のこどもの数が減ってきており、城南保育所もゆくゆくは閉めることになるかと思いますが、まだ様子のわからないところや、地域との関係もありますので、低年齢児の受け入れをする中で様子を見て進めていきたいと思っています。

老朽化施設の解消、市の負担軽減、児童の減少、幼稚園利用の減少と保育需要の増大に、うまく対応するための民間誘致と公立の再編であるにご理解をいただきたいと思えます。

[前田教育委員]

意図としては、それで待機児童はなくなるということですか。

[教育委員会事務局]

今の待機児童1名はおそらく解消できると思います。しかし、保留のところも希望に沿えておらず、入れないので育児休業延長されてしまう方もありますし、やむを得ず幼稚園利用に変えておられる方もあります。保留にならなくても、第2希望、第3希望に

移っていただいている方もありますので、第1希望でお預かりできるようにもしていかないといけないと思っています。そのようなところを解消したいという思いでの取組みです。

[西村市長]

育児休業を延長するために会社や組織の了解を取ろうと思ったら、一旦申請し、入れませんでしたという結果を添えて言わなければならないという方もありますよね。

[教育委員会事務局]

ありますね。入れるが入れないとして欲しいという方もいらっしゃるって、実際に2年前までは、本当は入れるが育児休業を取るために入れないとしてしまうことがありました。今はそれはしてはいけないと国から通知が来ていますので、必ず、入れる方には入れるとしています。

[西村市長]

今、園部幼稚園の通園者は何人ですか。

[教育委員会事務局]

園部幼稚園は、令和8年度は、3歳児10人、4歳児10人、5歳児8人の28人の予定です。

[前田教育委員]

園部幼稚園がこども園化して園部保育所が統合されても、先生方の働く場所は無くならないですか。

[西村市長]

南丹のぞみ園の時、市から中核職員を送り込んで、その方は定年になってそのまま続けておられますよね。また、年度任用職員を正職員でのぞみ園が採用するということがあり、今回もそれが理想だと思います。

[教育委員会事務局]

第2南丹のぞみ園ができれば、当然職員の補充をされるでしょう。前回の時は、市の会計年度任用職員をやめて、南丹のぞみ園の会計年度職員に移られた方が何人かいらっしゃいますが、正規職員が市職員をやめてのぞみ園に行ったことはないです。ただ、向こうが運営されるにあたって、本市のノウハウも得ながらというご希望があったので、市職員2名を派遣して、南丹のぞみ園で働いていただいた経過はあります。

再編により、新たにのぞみ園ができるにあたっての職員の流れは、まだ詳細な検討ができていないのが現状です。こどもの数が減るから職員も減るのではと思われるかもしれませんが、保育は標準時間で11時間預かりますので、配置基準に沿った形ですと、職員の通常の勤務時間では賄えません。早朝保育と延長保育があり、会計年度任用職員が補ったり、正規職員が時間外勤務をしています。なおかつ、支援の必要な子どもたちには、小学校でいう加配教員をつけないと回らないので、通常の配置基準よりも人が必要な状況があります。ただ、現状どこも人手が十分でないので、職員はなかなか有給休暇も取れず、延長や早朝保育で常に時間外勤務が発生しています。勤めている職場によって、規模や支援が必要なこどもの数に差はありますが、全体として職員に余裕がない状態ですので、再編で人が余ることは決してありません。子どもたちにより安心安全な保育を提供することとあわせて、職員の労務管理上も健全な職場環境が提供できるような形で考えていきたいと思っています。職員の配置までまだ手をつけられていないですが、急がないといけないという認識はあり、見通さないといけないと思っています。

[西村市長]

次の(2)南丹市就学前教育・保育の充実にむけた組織改正の効果についてに移りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(2) 南丹市就学前教育・保育の充実にむけた組織改正の効果について

(教育委員会事務局から説明)

[西村市長]

現在の体制と具体的な活動内容、特に実際の職員の研修等について説明がありましたが、ご質問、ご意見をお受けしたいと思います。

[城戸教育委員]

架け橋期コーディネーターとして、実際の学校現場や保育現場を訪問されたときに、どういう現場だったのか、違いなど感じられたことがあればお伺いしたいです。

[教育委員会事務局]

幼児教育・保育推進課から学校現場に行かせてくださいというのは、なかなか言いづらいところがありましたが、学校教育課と連携していくことで、ハードルが低くなりました。今、幼児教育はこどもの主体性を大事にしながら保育を進めていて、1年生になる子どもたちは、勉強したいと期待感をすごく持っています。実際に訪問させていただく中で、1対集団の学習の進め方について、先生によっても違いがあることを実感しま

した。遊びの要素が入っていると、こどもはすごく意気揚々と自分の力を発揮していると感じましたが、対一方的な指導になると、萎縮してしまっているこどももいると感じました。体がしっかりでき上がっていないこどもに関しては、45分の授業に参加することが、すごく大変なことだと実感もしています。そのような部分については、園に、体づくりも大事という話もしました。1年生のカリキュラムを頭に置きながら、どういう遊びから体を作り、授業を迎える姿勢を作っていくかは、保育現場もわかっていないといけなと感じました。また、学校教育課の架け橋期コーディネーターの指導主事と一緒に行かせていただくことで、授業の作り方はどうなんですかという素朴な疑問など、三者の中では色々と話ができ、それを学校に発信していきます。明日、その研修をする予定ですが、新たな第一歩をまた作っていければと期待をしています。

[城戸教育委員]

主体性を持ちながら、小学校に向けての目標も持ち、楽に授業を受けられるように繋げていくということですか。

[教育委員会事務局]

小学校の授業のカリキュラムは決まっています、評価がついてくるので、そこを踏まえながらということは、私たちも思っていないといけなと思っています。授業の中で対話をされる先生は、こどもたちがすごく意見を活発に言うので、楽しんで45分間あつという間に終わってしまいますが、先生によっては差もあるとは感じています。

[西村市長]

就学前と就学後の段差があるとのことですが、こどもによっては、それで小学校へ行くのが嫌になった、引きこもりになった、集団に慣れていないこどもはけんかばかりなどあると思います。そのあたりの状況と、架け橋期コーディネーターはどう有効に機能しているのか、具体的にはどんなことをされていますか。

[教育委員会事務局]

今年は、現状を把握していこうという段階です。具体的なアプローチについて、架け橋期プログラムの話を保育所、幼稚園と学校のそれぞれにしかできていないので、その整合性を図ることが第一歩だと思っています。保育所、幼稚園は、園長、所長会議などで話をしていますが、学校へは明日、教務主任の先生方に研修を受けていただき、まずは先生方に熱意を持っていただきたいという思いでいます。

5月、6月に授業参観をさせていただいた際に、授業に期待を持っていった1年生の中で、わからないと言えないこどももいて、そういうところを見逃してはいけないと感じています。最初の勉強のつまずきが、2年生3年生とずっと続いていくのではという

懸念もあるので、1年生の1学期にいかにも楽しく授業で学べるか、学ぶことは楽しいかと実感を持ってもらうかは、すごく大事なことだと思っています。

[國府教育長]

就学前と小学校1年生との間に、一般的に小1の壁と呼んでいる大きな谷間があるので、本市の場合、市長の理解のもとに教育委員会に所管ができました。それによって、就学前の架け橋期コーディネーターと学校教育課の指導主事が一緒に行くことができ、ハードルは下がってきました。京都府の架け橋期コーディネーター設置促進のための研究事業の委託を受けているのが府内で唯一本市だけなので、効果は確実に出てくるのではないかと考えています。

本市は35歳までの先生が40%なので、架け橋期コーディネーターに見てもらった若い先生は、授業力にどうしても課題があります。しかし、どこに行っても1年生の指導は素晴らしい先生もたくさんいらっしゃいます。その方の授業と一緒にあって、架け橋期と横の授業研究会を充実させ、その方のキャリアスキルを聞くと、様々な課題の克服ができるのではないかと考えています。私も中学生を見てきたので、低学年の子どもや就学前を見ていると、逆に学ぶことが多いです。ちょうど今そういう過渡期かなと思います。

[城戸教育委員]

放課後児童クラブの方もこの話し合いに入っていらっしゃるみたいですが、放課後児童クラブは、先生ではなく支援員さんという形でいらっしゃる方もいて、子どもたちが発散してしまう場にならないかと心配します。

[教育委員会事務局]

去年、支援員さん対象に、新しく1年生に上がっていく子どもたちが受けている保育の話をする機会がありました。指示、命令ばかりで動くと、子どもは何も考えなくなってしまうので、自分たちで考えて生活をつくり出していくことは放課後児童クラブでも大事ではないかという提案はさせていただいていますが、実際どう向かわれているのかという把握までは出来ておりません。

[西村市長]

放課後児童クラブ関連の職員から何か答えられることはありますか。

[教育委員会事務局]

支援員への研修会は年に2回必ず行っており、その都度テーマ設定をしておりますが、先程から話が出てきている内容まで、突き詰めた研修ができていない状況です。

[西村市長]

これからできるのですか。

[教育委員会事務局]

はい。今後の研修テーマの一つとして考えていきたいです。

[城戸教育委員]

大人が今の子どもたちに対して指導しにくいと聞くことがありますので、支援員さんにも何かあれば。

[國府教育長]

架け橋期は教育現場の関係です。今の話の放課後児童クラブはまた違う課題があり、まずは、会計年度任用職員の方が多く、高齢化しています。教員資格をお持ちの方もほとんどいらっしゃらないです。また、学校現場では人間関係等を考えてクラス分けをしますが、放課後児童クラブではまとめてお預かりします。そういう意味では、就学前との架け橋期で、特に低学年の子どもが戸惑われることはあります。そのような環境でそれぞれの課題が重なってしまうと、市長が言ったように不登校になったりすることが起こると思います、放課後児童クラブもできるだけ見に行くようにはしています。

[西村市長]

放課後児童クラブの関係は今の議題と繋がっていますが、一緒に議論していきにくいです。目的は、放課後にいかに安全に子どもらを見守るかという見守りの範囲です。今一番の課題は、スタッフの確保、あるいは、今が悪いわけではないが、スタッフの質をいかに向上させるかはなかなか思うようにいかないのが実態ですね。

[教育委員会事務局]

その通りです。高齢化していると教育長から言っていただきましたが、その下が学生になっていたりするので、年齢差が大きく、中核となる人がすごく少なくなっているのが現状です。研修では、それぞれの経験年数に合わせたり、内容を変えたり色々な方策で、支援員さんにも学んでいただこうと取り組みをさせていただいています。

[西村市長]

ありがとうございます。次に（３）小中一貫教育および義務教育学校について事務局から説明をお願いします。

(3) 小中一貫教育および義務教育学校について

(教育委員会事務局から説明)

[西村市長]

説明については以上です。ご質問、ご意見をお受けしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

0歳児と1歳児の間の落差は何か理由がありますか。

[教育委員会事務局]

コロナ禍が2、3年遅れで出産に影響していると理由にされる方もあります。この先、通常に戻れば人数が増えるのかもしれないですが、単に結婚、出産が控えられての減少であれば、さらに減っていくのではという話です。今それを判断しきれていないのが一般的な意見です。

[西村市長]

コロナのピークの令和3年4年ごろに0歳が大きく減るのはわかるが。

[教育委員会事務局]

その余波が今きていると。

[西村市長]

困ったことですね。学校として通常なら成り立たないですね。美山が6人で、増える要素はなく、さらに減っていきますよね。全校で30人強になってしまいます。

[教育委員会事務局]

美山は統合して1つですが、胡麻郷、殿田ですと、今年の0歳児がどちらも4人、八木東も5人です。この4名、5名がそのまま小学校に入ってくればいいですが、支援学校や私立に行かれることもあるかもしれません。

[西村市長]

引っ越しもあるでしょう。

[教育委員会事務局]

可能性はあります。児童数が少ないから街へ引っ越すなどという話になれば、さらに減ってしまいます。転入はなかなか見込めません。

[國府教育長]

一番大きいのは、園部に附属中学校が残ったら35人減りますので、学校の制度も変えていかなければなりません。実は、2年前から定員を30人にしてほしいと言いは行っていました、変わらないそうです。70人中30人が附属中学校にいくと、園部中学校は1学級になります。具体的に数字を見ると、少子化と一言で言う以上のものになります。先日は京都新聞に、本市と同じ様な3万人弱の市が小学生の入学生が0だと出ていました。本市だけでなく、日本、特に田園地域と都会との差が大きくなっているのが現実ですね。

[西村市長]

こういう実態を見せたときに、少子化対策、人口増の対策をどうするんだという話になります。こどもを持った方や、出産が予想される年齢の方に移住してもらうなどの移住定住の取り組みについては以前からしていますが、ぼつぼつとあるぐらいで、なかなか手の打ちようがありません。国策的にしてもらわないと。企業でも、若干支援が手厚くなるなどにはありますが、もっと極端なことをやらないと。また、田舎にも働ける場所はあるというので、産業の再配置なども考えないと、頑張っているがなかなか一気には進みません。高齢者人口も減ってきています。

[前田教育委員]

小中一貫校は、やりますと言ったらどれぐらいかけてできるものですか。

[教育委員会事務局]

例えば、殿田中学校と殿田小学校は隣接していますので、隣接型小中一貫校を組もうとなると、市の条例を制定するぐらいですので、約1年です。義務教育学校のように施設を一緒にしようとする、施設内に小学校1年生から中学校3年生が入れる状況を作らなければなりません。グラウンドや遊具等もあるので、年数はかかります。ただ、小中一貫校、義務教育学校ともに、地域の了解をいただくことが一番大きなハードルになるかと思います。

[前田教育委員]

幼稚園、保育所も小学校も中学校も一緒になっているところを1回見に行ったことがあります、それはありかなと思っています。ただずっと同じ顔ぶれの10数年間がいかにということと、入学の緊張感や卒業のきりがないのでどうかなと思っています。

[城戸教育委員]

小中一貫になった時も、小学校の卒業、中学校の入学はありますか。

[教育委員会事務局]

小中一貫教育は目標やカリキュラムを共有するという事なので、小学校と中学校が別々にあり、校舎をまたぐときには卒業、入学があります。義務教育学校は、該当学年の子どもたちを9年間預かるということなので、卒業、入学の段階はないです。ただ、中学校から私立に行かれる子どもがいたりするので、亀岡の川東、育親などは、小学校6年生の段階で式典のようなものをして、私服通学から制服通学への変わり目にしたりされているようです。どう運営するかは、運営する側が決められるとは思いますが。

[西村市長]

人数がほとんど減ったところは一定の年齢から全寮制で、というようなことをしないともう方法がないですね。そういうことをしている所があるのではないかと思います。寮へ行ったら様々な子どもがいるので同じ顔ぶれでなくて良いと思います。

今日のこの会議についてご感想等いただけたらと思います。

[一谷教育委員]

就学前教育・保育と、この組織を作ってまだ日数がたっていないということで、大人は実感が早いので、効果があることはすぐわかると思いますが、子どもにどんな効果があるのかある程度の結果が出るまでは、絶対にこの組織でやってほしいです。また、就学前からカルテを作って、どんどん上げていくことは年数がかかることだと思いますので、こちらも是非とも続けられるようにしてほしいです。

少子化は、12年後ぐらいが見えているということでしたが、もっともっと先まで見通すことは可能かと思えますので、こうしていきたいという思いは早くもって、ある程度示すことも必要かと思えます。この町に住んでいる人がどれだけ理解しているのかは、何か早い解決があればいいところではあります。非常に難しく、現状にひるんでしまうかなと思ったりします。課題ばかりですが、見なければならぬところではないかと思えます。

[西村市長]

ありがとうございます。

[淵上教育委員]

南丹市の教育として、保育所も幼稚園も小学校も、自然豊かなことも、いろいろ考えていただき、研修等で勉強もされていると思うので、都会では味わえない田舎ならではの取り組みなどを上手く発信していただいて、南丹市はすごい魅力的なことだと、来ていただけるように考えていただけたらいいと思いました。前に出された提案もそうですが、なかなか解決はいいかと思いますが、今取り組んでいることをアピールできるよ

うな取り組みをしていただけたらと思います。小中一貫校の教育など、このような場で私たちも学ばせていただきますが、なかなか無知なところがあるので、ぜひそういう機会があれば私たちも勉強させていただき、一緒に考えさせていただけたらと思いました。

[西村市長]

ありがとうございます。それでは最後に（４）教育課題とありますが、聞き逃したことや言い逃したことなどがございましたらご発言をお願いいたします。

（４）教育課題について

[城戸教育委員]

直接繋がるかわからないですが、明治国際医療大学の秋津先生が2027年4月に有機農業の学部を開設される予定です。これは、現在ヨーロッパにしかないです。美山や日吉の土地を利用して、有機農業、持続可能な農業を学ぶ学部を作っていかれる予定だそうです。食は大切なので、そのような面白い、魅力がある部分を紐づけて発信していけば、南丹市に住んだら面白いから子育てもそのあたりでしたい、と興味を持ってくれる親御さんもいらっしゃると思いますので、活用していけたらどうかと思います。

[西村市長]

100人の定員で、学生の確保をしっかりとしないと学校として成り立ちませんので、今必死になってされています。おっしゃるように、イタリアの北部などでは、大変な競争率で世界から来られるので、そのような魅力ある学校にしたいと秋津先生もお考えです。移住定住に繋がるような影響力を持つところまで高めていくためには、オーガニックビレッジ宣言をして、有機のまちをつくりましょうという施策があります。本市も手を挙げたいですが、何もしていないのに手を挙げることはできませんので、生産者もしくは消費者として有機農業に関心を持って注目していただけるようなまちにしなければなりません。それがどこまで移住定住に繋がるかわかりませんが、実際にするのは消費者や農家の皆様なので、どう刺激していくのか、組織化していくのか、繋いでいくのか、ということのをこれからの市の政策にしていかないと、という考えはあります。うまくいくかどうかわかりませんが、応援協力をよろしくをお願いいたします。

< 3 > その他

[西村市長]

その他、何かございますか。

それでは最後に、教育長から閉会のご挨拶をお願いしたいと思います。

< 4 > 開会

◇教育長挨拶

皆さんご苦勞さまでした。特に教育委員の皆様、定例の教育委員会、総合教育会議と2つの会議をお世話になり、貴重な意見をいただきましてありがとうございました。

総合教育会議は、市長と教育委員の皆様と一緒に協議して課題整理をする場であり、本日は主に3つのことについてお話をさせていただきました。令和5年のときは、就学前教育がどうなるかという不安が、現場でも教育委員さんの中でもありました。それが徐々に整理できていく中で、認定こども園化の方向性が決まって、全4町ですと申し上げました。園部幼稚園も認定こども園化する方針がいよいよあります。ここにいる職員も大変苦勞してくれていました。そういうことが言える場になったことを私自身も喜んでいきます。ハードルはまだありますが、器の整理は徐々にできていると思っています。

中身につきましては、組織改正がされ、整理ができていると思っています。本市では当たり前のように就学前、小学校、中学校と縦が繋がっていますが、他のところでは全くないところもあります。来年度は、私立も南丹市の教育を理解していただき、この縦の接続に入りたいということで、11月に聖家族幼稚園、2月末に南丹のぞみ園へ行きます。こどもたちの変化、教育現場の変化、社会の変化が早いので、我々の固定概念も打破していかなければならないということで、今年はその前段階をしています。

そして、少子化などのニュースを色々なところで聞きますが、現場はもっと先を進んでいます。本日、就学前について話しましたが、中学校、小学校の大きな課題があります。次の波は、中学校の部活動が地域展開になり、令和13年にはなくすということです。放課後、勉強してくれるこどもがあるように願いますが、こどもが帰ると親がいないので、当然SNSにはまってしまい、できません。そのことについて、教育委員会の事務局を中心に動いていまして、整理して、昨日スポーツ庁に資料を送り、1月20日にスポーツ庁に出向いて本市の現状を説明します。その課題に我々は取り組んでいかなければなりません。来年度あるいは再来年度には、小中学校の課題についても総合教育会議でお世話にならなければなりません。放課後児童クラブも非常に人手がなく、他の市町村では、公立はなくされているということもあります。教育界、特にこどもの周りにはそのようなことが渦巻いています。教育参事や総括が教育現場に戻ったときには、こどもがいない、そこで管理職をしなければならない、ということになるかと思えます。市長の開会の挨拶にございましたように、一緒になって方向性を決めて、南丹市がさらに充実したものになることを申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。